

平成 2 4 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取養護学校

校長 小坂 祥子

評 価 日	平成 2 5 年 3 月 5 日 (火)	
評 価 : 提 言		学校の所見・改善策など
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 ・中間評価からの変化について変化の有無やその背景を確認・分析し、効果のあった取り組みをアピールしていく。 ・キャリア教育をどう社会に繋げていくかが大切である。保護者への説明、卒業後の進路先への情報の引き継ぎ及び関係づくりが必要である。 ・人生全体を見据えた支援計画を作成する必要があるが、どこがどのように関係諸機関をつないだり、家族の抱える課題を集約したり、役割を振り分けたりするか等に課題がある。学校の移行支援計画・移行支援会議が重要である。 ・心身症等の支援についてカウンセリングを充実するとともにスクールソーシャルワーカーや精神科医等、他分野からの資源を活用していく。 ・教師に医療、リハビリなど多様な専門性が求められている。家族支援も担任に求められ、個に対して個で対応している現状がある。障がいの重度重複化に対する体制づくりが必要である。 ・子どもが健やかに成長する姿や教員同士が指導し合う、支援し合う姿が見えることが保護者の安心になる。保護者の多様な声を全部受け止めることは大変だが、声の中に大切なことが含まれている。誠意ある対応に努める。 (2) 説明・公表について ・専門的な用語を使用する場合は説明があった方がよい。 ・学校全体で、キャリアという用語を広めていってはどうか。 ・意味を取り違えられそうな言葉の訂正をする。 ・ホームページでの公表を行う。 2 学校運営への提言 ・I C Tの活用について先進的な取り組みを県下に発信し、センター的機能の発揮を望む。 ・教師が元気でなければいけない。よいところを伝えあうことも大切にしたい。 ・療育園等に使用しない椅子等の備品が増えている。物品要求する際に、学校と情報交換していきたい。		・「子どもを語る会」「支援会議」「お役立ち勉強会」「学部・分掌発行の通信」等が充実してきた。継続により、更なる充実を図る。 ・進学や就職など様々な進路先がある。計画的に保護者に説明を行い、小・中・高等部におけるキャリア教育の充実を図る。 ・移行支援会議等を望まない方や求めない事業所があるが、現場実習等を通して事業所と連携・情報交換を行い、スムーズな移行に必要なものを明確にしていく。 ・スクールカウンセラーによる教育相談を有効に活用する。医療・福祉等と連携しながら支援会議や研修を行い、心の病気のある児童生徒への支援を充実する。 ・療育園をはじめ、他の関係機関の専門性を活かしたシステムづくりを進める。 ・生徒・保護者の心情に寄り添い、信頼関係の構築に努める。子どもの将来像や目標を共有し、学校・家庭・地域等の役割を確認しながら、子どもの成長を支援する。 ・曖昧な表現や専門用語については訂正したり、説明を加えたりする。 ・学校自己評価及び学校関係者評価報告書をホームページ上に公表する。 ・i P a dを活用した実践の幅を広げ、有効性や課題を検証しながら、情報発信を行う。 ・一人ひとりのよさが発揮できる学校・学部運営に努める。 ・療育園と協議する機会を設け、教材の点検・整備をしていく。

